

## 第三十一回 歯の咬み合せの高低と左右・前後のバランスと血液の流れ

体の痛み(内臓の傷の病は除く)は必ずしも骨がズレ捻れを起こしているだけでなく、血液の流れが悪い側には足の裏の皮が分厚くなったり、魚の目とかシビレが起こったり、足のネンザ、足のふくらはぎに「コブラガエリ」がおこったり、足の太ももに表又は裏又は横に痛みがでたり、内臓を押すと痛いとか、首・肩が凝る、寝違えて痛い、片方の耳がおかしい(左右共は老化現象)とか頭痛がするとかこれらは必ず片側です。

このように血液の流れが悪いと同側に大なり小なりの筋肉、靭帯に痛み、シビレが起こしているものです。

もし仮に両側に異常をおこしているならばよく調べてみると必ず片側の歯が原因です。

その時に片側の大脳のある部位にも血液の流れが悪いはずで、片側の大脳すべてが血液の流れが悪いと片側の内臓もすべて血液の流れが悪いはずで、

腰痛ヘルニア(但し軽症状)において髄角が飛び出す側は歯の咬み合せの高い側、つまり足の長さが短足側におこるものです。但し背骨がCカーブ・Sカーブにより逆になることがある。頭蓋骨が捻れをおこして、捻じれて左右のバランスをとっているものです。

いい忘れていましたが顎の音のなる側は血液の流れが悪い側です。

両方なるのは硬膜の緊張をおこしているタイプです。硬膜の緊張をとると片方になるものです。

座骨神経痛は足の長足側におこるものです(短足側におこりますと相当悪いことを意味します)。足の長足側は血液の流れが悪い側であり、体の片側半分に「むくみ」をおこし、腰から足先迄の座骨神経を圧迫し、「しびれ」「痛み」をおこします。短足側に座骨神経痛をおこしていますと体中にむくみをおこし左右の手足の冷え、又は内臓にも血液の流れが悪い為に体がダルイとか、さらにひどくなると歯の神経の治療に弱い消毒薬を入れるだけでも歯が痛いとか、体の他の部位でも手術してもうまくいかないとか、治りが悪いとかいうように、血液の流れが健康を左右する1つになります。

そして体の情報を詰め込んであるのは大脳です。

大脳の異常反応を起こしている部位と歯の咬み合わせのバランス・高さの異常の部位とが必ずここで一致するものです。但し、骨格系の異状による歯の咬み合せの調節と軟組織の筋肉(内臓も含む)及び首・四十肩による血流の流れの異状による歯の咬み合せの調節部位は全く別々の部位であり、大脳の異常反応もこの2つは別々の部位に反応します。四十肩とか足が冷えるとかで骨格系の歯の咬み合せの調節してもよくなるらないということです。

ここで歯を高くするか低くするか、上の歯か下の歯かを決めねばなりません。